

2019年11月21日改定



無添加厚塗りしっくい®

施工要領書

r-cove* UNITED 本部

概要

商品名	: 無添加厚塗りしっくい®
内容量	: 20 kg/袋
塗り厚	: 壁 5~6 mm、天井 3 mm
塗り面積	: 壁 約 5 m ² 、天井 約 7 m ²
塗り付け回数	: 1 回塗り仕上げ

1. 下地について

無添加厚塗りしっくい®は、リフォーム現場でも使用できるように開発されております。既設下地の状況による、施工可否は以下の通りです。

下地の状況	推奨度	備考
プラスターボード（新規）	◎	
ベニヤ+クロス	○	クロスは防汚加工なしのもの。汚れがひどい場合は張替を。
コンクリート	△	アクが出る可能性あり。アク止めを推奨。
ベニヤ	△	アクが出る可能性あり。アク止めやクロスの捨て貼りを推奨。
コンクリート+クロス	X	剥がれ落ちるため不可。
プラスターボード（既設）	X	アクが出ます。

※下地施工の際に、若井産業・マキタ以外の一部のカラービスを使用すると、ビスの塗料硬化不良から漆喰に顔料が溶解し漆喰施工直後にアクが発生する可能性があります。

2. 配合・攪拌

- ① 100ℓ の樽を使用した場合、26ℓ の水を張ったところに「無添加厚塗りしっくい®」一袋（20 kg）を 1.5 袋を入れ 軽く攪拌し 10~20 分放置する。
- ② 最初の 5 分から 10 分を低速回転（スコップなどで混ぜても良いです）で攪拌し、その後に残りの 0.5 袋を加え、水分量を微調整していきながら仕上げに 10 分以上高速回転で攪拌してください。
- ③ 一袋（20 kg）に対して 15ℓ を限度として気温が高ければ水を多めにするなど、気温や湿度に応じて調整したうえでよく練り合わせてください。（鏝にのせてもすぐに垂れない程度）
- ④ 必ず容器へは水を先に入れ、本品を徐々に加えながら混ぜてください。スサのかたまり・ダンゴ状のものが無くなり、流動性が出てくるまで攪拌してください。攪拌時間が短いと仕上がった時にスサのダマが発生しやすくなります。

- ⑤ 外壁に漆喰を塗る場合は、無添加厚塗りしっくい®一袋(20kg)に対して植物油 200cc 程度と柿渋を 200cc 程度入れると、防水性、凍結防止、ツヤ出し効果があります。(その分水の量は減らしてください。)

3. 下地処理・養生

- ① 床造作時の養生の上に漆喰作業用のビニール養生を床一面に隙間なく敷き込んでください。
- ② コンセントプレート、スイッチプレート、照明器具など将来外す可能性があるものは必ず外してください(点検口や家具の扉なども事前に外してから養生をしてください)。
- ③ 下地にカラービスが使用されていないか確認してください。使用されている場合、アクが出る可能性があるためカラービスの上に漆喰を付着させ、アクが出ないかを確認してください。アクが発生した場合は、再施工をするか、捨てクロスを貼るなどアクに対する対策をしてください。
- ④ 枠の見付けや巾木等は漆喰の塗り厚 5mm~6mm(天井の場合は 3mm 程度)を確保してマスキングテープで養生をしてください。
- ⑤ 扉や引き戸の可動域に注意してマスキングテープで養生をしてください。
- ⑥ ビニールクロスの上に塗る場合は、防汚加工していないか確認の上、ステンレス製のタッカー止め(@300mm 程度)を行ってください。
- ⑦ 既設のクロスの汚れ具合によってはアク止めや捨てクロスにて張替えが必要です。
- ⑧ 新規のプラスターボードを使用する場合、基本は平ボードを推奨とします。(平ボードでもベベルボードでもジョイント部にはパテ処理後にジョイントテープを張ってください。)
- ⑨ 出隅・入隅のボード小口にもジョイントテープを張ってください。(必ずジョイントテープは抑え込みプラスターボードに密着させてください。)
- ⑩ 既設壁・天井がコンクリートの場合は原則として既設のビニールクロスと裏紙はきれいに剥がしてください。(ビニールクロスの糊だけで漆喰をコンクリートに接着させることとなりますので捲れる危険性があります。)
- ⑪ ベニヤ下地の場合や既設のボードが古い場合はアク止め(アクドメール等)を塗布するか、それでもアクが出そうな場合は捨てビニールクロスを貼ってください。
- ⑫ プラスターボードのジョイントが広い場合や段差がある場合、又欠損がある箇所は先行してジョイントテープで補強しパテ材を隙間なく埋めて処理をしてください。
- ・ビス頭、平面やジョイントの段差・隙間が小さい場合：石膏・ワнтаムなど
 - ・出隅などの下地が破損、欠けが大きい場合：GLボンドなど

4. シーラー処理

- ① 内部仕上げ（新規プラスターボード・クロス下地）で漆喰を使用する場合
下地処理後、専用の「無添加厚塗りしっくい専用シーラー」を水で溶いたものをローラーで塗布します。（原液が望ましいですが、作業性を高めるために無添加厚塗りしっくい専用シーラー3kg に対して水 750ml までは混ぜても可）シーラーを塗った箇所に艶がでていない箇所は塗れていません。再度塗り直してください。
（塗り忘れがないか必ず確認し次の工程に移ってください）
- ② 内部仕上げ（コンクリート下地）で漆喰を使用する場合
下地処理後、NS ハイフレックス HF-1000 又は城かべシーラーを塗ることを推奨とします。希釈率は、3 倍希釈液（HF-1000：清水=1：2）とし基本は1 回塗りとしてください。塗布後乾いていることを確認の上、①の手順にて「無添加厚塗りしっくい専用シーラー」を塗布してください。
- ③ 外部仕上げで漆喰を使用する場合
外部のシーラー材は NS ハイフレックス HF-1000 を推奨とします。希釈率は、3 倍希釈液（HF-1000：清水=1：2）とし基本は2 回塗りとしてください。塗った当日は養生期間とし、翌日に漆喰施工としてください。
※ドライアウトにご注意ください。

5. 塗り

- ① 壁の場合：塗り厚 5mm～6mm(天井：3mm 程度)で1 袋につき 5 m²～6 m²まで塗りのばします。
- ② 同一面は同日中に必ず仕上げてください。（同一面での作業ジョイントはできません）
- ③ ダウンライト廻りやスイッチコンセント廻りはその部分のみ平滑になるよう押さえてください。
- ④ 入隅などは仕上げの際に折り返し 10mm 程度塗ると、スサなどの縁切れがなくなり割れにくくなります。
- ⑤ スサが固まって表面に出た場合は、仕上がった時に固まり部分の膨らみやスサの色が透けて見えることがあるため、スサの固まりは取り除いてください。

6. 養生撤去

- ① 養生テープは漆喰が乾く前に剥がし、清掃と補修を行ってください。
- ② 乾燥のため、防犯上問題が無ければ窓を少し開け自然乾燥させてください。窓を開けられない場合は換気扇を回す等して空気の流れを作ってください。また、漆喰塗り直後は湿度が高くなるため除湿機の使用をお勧めします。
- ③ 建具等の反りに注意してください。(建具は漆喰工事中できる限り吊り込まない)
- ④ コンセントボックスの開口部分などで乾き具合を確認する事ができます。
- ⑤ 白木についた汚れ(灰汁)は酢を清潔な布につけ、きれいに拭きとってください。
- ⑥ 扇風機や外気が直接漆喰塗り面に当たり続けると急激な乾燥によるクラックの発生につながりますのでご注意ください。

7. 補修 (粉が飛ぶため、床や壁等必要箇所に必ず養生をしてください。)

- ① 漆喰は乾燥後に入隅や枠廻りに隙間(クラック)が入る為、ケレンなどでクラック周りのバリの部分を削り、削り取った粉末をクラックに入れ込んだ後、クラック以外の表面に付着した漆喰は拭き取り、霧吹きにて水分をあたえてクラック内の漆喰を硬化させます。平面クラックの場合も漆喰のスサを抜いた粉を刷毛などでクラックに充填させ、周りの余分な漆喰の粉を拭き取り霧吹きで水分をあたえて補修します。(※凹み跡など平面部分の補修は跡が出る可能性があること、刷毛補修した場合は艶感が変わることを事前にお客様に説明が必要です。漆喰の伸縮による隙間は自然素材特有のモノになりますので、艶感が変わる事が嫌なお客様には無理に勧めないようにしてください。)
- ② 必要に応じ枠や中木に付いたバリをスクレーパーで削りラインを出してください。
- ③ ダウンライト廻り等どうしても気になる隙間が出来た場合は、隙間周辺を霧吹きで湿らせた後、スサを抜いて水で溶いた漆喰で隙間の部分だけに充填してください。(部分補修はできるだけ最小限にすると補修跡が目立ちにくいです。)
- ④ 面で増し塗りにて補修する場合は、漆喰の急激な乾燥を避けるため、塗膜タイプのシーラーを塗布し、乾燥後に専用の「無添加厚塗りしっくい®専用シーラー」を塗布してから漆喰を増し塗りしてください。

施工に関するお問い合わせ先

株式会社 安江工務店

品質管理部 山崎 健二郎

〒468-0056

名古屋市天白区島田 1-1413

TEL (052)801-3300 FAX (052)803-9595

Mail:k-yamazaki@yasue.co.jp